

日本の自動走行実証実験の現状

～沖縄県北谷町の実証を中心に～

平成29年12月24日

経済産業省 製造産業局 自動車課

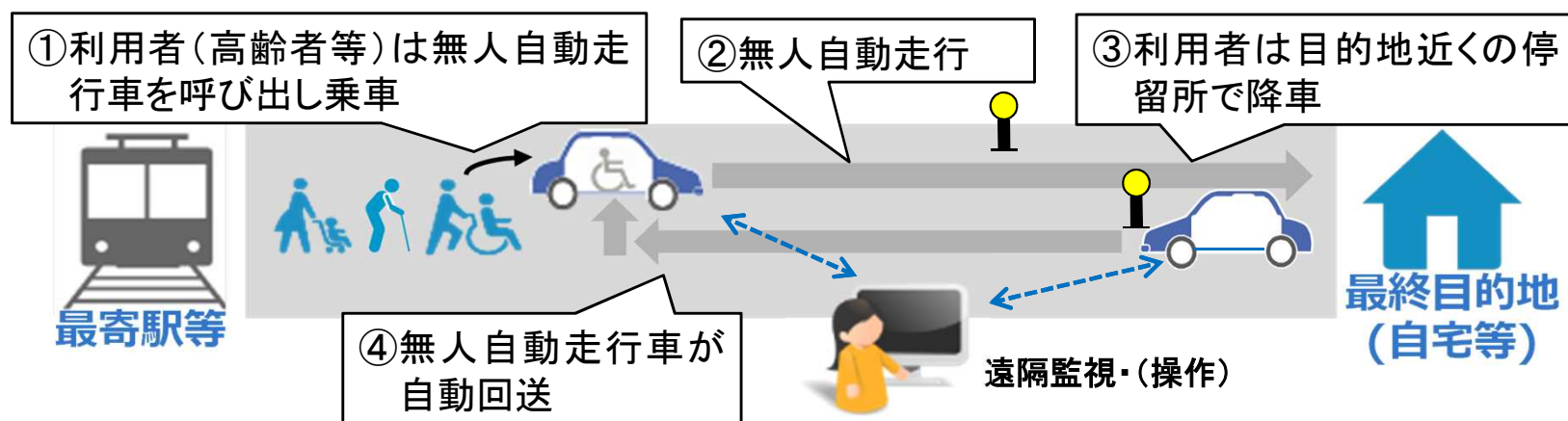
電池・次世代技術・ITS推進室長

垣見 直彦

目的

ラストマイルモビリティにおける自動走行技術などを用いた小型カートやバスによる公共的利用の新しい交通システムの社会実装を目指す。

- 基幹交通システム(鉄道やバス等)と自宅近くや目的地との間、地域内といった短中距離を補完
- 地域の活性化、高齢過疎地の移動手段の確保
- 人件費の削減及びドライバー不足の解消
- 自動走行におけるレベル4(SAE J3016)と遠隔型による交通サービスをラストマイル自動走行として実証



サービスイメージ



スマートEカート



スマートバス

車両イメージ

概要

- ・自動走行技術の確立
無人自動走行、遠隔運行の安全性、信頼性を実環境で実証
- ・ビジネスモデル(事業性)の明確化
サービス事業の成立性、継続性の道筋を実地域モデルで実証
- ・社会システムの確立
関連省庁との技術やビジネスに関する制度等の議論、インフラ整備の実証
- ・社会受容性の確立
実地域の利用価値とステークホルダーの高い受容性を実証

実証地域

【小型電動カート】



福井県永平寺町
過疎地モデル



石川県輪島市
市街地モデル



沖縄県北谷町
観光地モデル

【小型バス】



茨城県日立市
コミュニティバス

2016年度

2017年度

2018年度

自動運転車両・システム、管制システム等の開発、改良

要件、受容、事業性等の検討

インフラ整備、現地調整

実証地公募・選定

技術検証、先行実証

実証評価
(事業性、受容性)

北谷町での実証

海沿いの町有地の走路を利用した、ホテルから観光地への移動手段

1. 地域概況



概況:
2つのビーチとアメリカンビレッジを拠点とした観光地
人口: 約29,000人
観光客数: 約660,000人
(外国人 約260,000人)

2. 走行ルート



※経路は応募時のもので未確定

■ 観光地モデル: 観光地の活性化

- ◆ 観光施設とホテル等の巡回
- ◆ 観光客の需要促進 (沿道施設の利用)
- ◆ 移動弱者への安心な交通手段の確保

■ 利用者

- ◆ 観光施設、ホテル等利用の観光客

■ 走行経路

- ◆ 海沿いの町有地走路(非公道)を利用した、観光施設、ホテル、ビーチなどを巡回するコース (約3km程度)

■ 実証課題

- ◆ 人等との共存空間における自動運転
- ◆ 人の混雑時等の対応 (安全と運行の持続)
- ◆ 遠隔無人運行・回送 (遊歩道上)
- ◆ 外国人対応、警備などの付加価値と事業性
- ◆ 需要変動対応 (増車、連結)



Phase1:

サンセットビーチ・・・ホテル・・・うみんちゅワフ

Phase2:

うみんちゅワフ・・・サンセットビーチ・・・アラハビーチ

➤ 実証実験にはPhase1のルートで先行的に実証可能

Phase2のルートは現在ヒルトンホテルの電動カート(6人乗り)が運行中(2015年度利用者数: 5,200人)